

校長スケッチ

令和6年8月6日（火）

OKAYAMAスマホサミット2024 第2回サミット

スマホ有効活用提言へ

OKAYAMA
サミットで方針 中高生30人討議

岡山県内の子どもたちがスマートフォン適切な利用法を考える「OKAYAMAスマホサミット2024」（県教委、岡山市教委、山陽新聞社主催）の第2回会合が6日、岡山市内であり、スマホの有効活用を推進するため、保護者や学校関係者を含む地域社会に向

けた提言をまとめる方針を確認した。県内の中高9校の生徒約30人が参加。サミットの講師を務める国立教育政策研究所の高橋典久総括研究官が2歳児のインターネット利用時間が1日平均2時間を超えたという内閣府の調査を示し「母親が一人で負担を抱え

る」ワンオペ育児などの影響で小さい頃から動画を見て育っている。より良いデジタル社会をつくるには、社会全体への働きかけが重要だ」と指摘した。生徒たちはこれを踏まえて話し合い、自分たちの考えを提言としてまとめる方向で一致。グループ討議で

スマホの有効活用に向けた提言の内容について意見交換する中高生

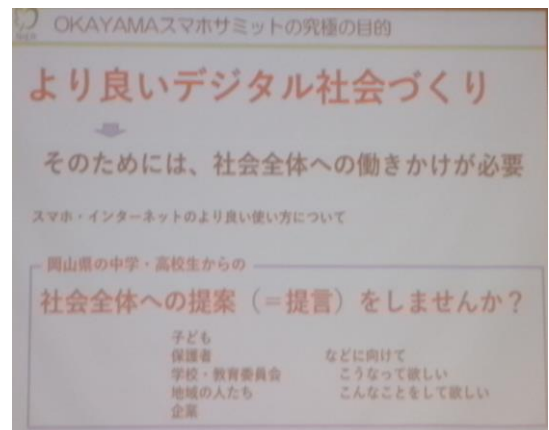
い」といった意見が出た。今後、各校で提言を取りまとめ、11月に行う成果報告会で発表する。

天城高2年の南堀介さん（16）は「自分たちの提言をき

つかけに幅広い世代にスマホの良さやリスクが伝わるように取り組みたい」と話した。

（川中満仁）

出典：R6.8.7 山陽新聞



県立図書館で開催された、「OKAYAMAスマホサミット2024 第2回サミット」に2・3年生の6名が参加しました。

最初のグループディスカッションで、自校の取組について紹介した後、「スマホの適切な利用や提言作成について」のシンポジウムを経て、最後は提言作成に向けて、またグループで意見交換を行いました。

他校の生徒や高校生と意見を交わす中で、新しい気づきや井原中で取り組みそうなアイデアを持ち帰ってくれたのではないかと思います。

第3回サミットで報告ができるよう、2学期からの活動を楽しみにしています。